

令和4年6月

水

意

月

あ お ぞ ら

鹿屋市青少年育成センター

第376号

鹿屋市共栄町20-1 TEL 31-1138
(鹿屋市教育委員会 生涯学習課)

「129.3」

鹿屋市立笠野原小学校 校長 坂之上 辰志

「129.3」という数字を見て、すぐにピンときた人は、ドラえもんの相当なファンだろうと思います。実は、「129.3」という数字は、アニメのキャラクターであるドラえもんに設定されている数字なのです。(ドラえもんの身長129.3cm、体重129.3kg、生年月日2112年9月3日)

では、ドラえもんの作者、藤子・F・不二雄(本名：藤本弘さん)は、なぜ、この129.3という数字にこだわったのでしょうか。

インターネットやドラえもんについて書かれている本を調べてみると、この数字は、当時の9歳(小学4年生)の平均身長から取ったものらしいのです。連載が始まったのが昭和44年ですから、当時のデータを参考にしたのは、間違いなさそうです。

ドラえもんの登場人物の一人「のび太」は、現在は小学校5年生の設定ですが、連載当初は小学校4年生に設定されていたようです。つまり、「のび太」を当時の平均的な小学校4年生に設定し、「のび太」を見下ろさない存在としてドラえもんの身長は、129.3cmとなったようです。このことは、作者の藤本さんが、常に子どもの視線を心の中に持ち続けた人だったことを偲ばせるエピソードです。

ドラえもんのストーリーに出てくる道具を思い浮かべると、「あんなこといいな。できたらいいな。」と思わせる夢いっぱいのものばかりです。ドラえもんを見ながら、いつも思うことがあります。「のび太は、便利な道具をなぜ、あのような使い方をするだろう。」ということです。「私だったら、こんな使い方をするのに…。使い方がおかしいから、そうってしてしまうんだ。」

ある日、いつものようにドラえもんを見ながら、ふと気付いたことがあります。それは、のび太が、「道具を自分のために使ったときは、自分に必ずしっぺ返しがかかる。人のために使ったときは、必ず効果を発揮する。」ということです。いかがでしょうか。作品に込められた一つのメッセージに触れた気がして(自分勝手な想像ですが…)うれしくなりました。

わたしたち大人は、年齢と経験を重ねることで、知識も豊富になり、物事を見る視点も広がり、判断力も備わってきました。これは、もしかしたら「ドラえもんの便利な道具」と同じではないかと思えます。「ドラえもんの便利な道具＝大人の知識や経験」ということです。そのように考えると、子どもが「のび太」のように困った場面で、どのように向き合うかが大切になってくるのではないかと思います。ドラえもんの高さ「ドラえもんポジション」で子どもを見つめ、話を聞き、一緒に考えることも大切なように感じます。

